

JAグループ神奈川

<http://www.jakanagawa.gr.jp/>

バックナンバーはこちらから



*十分な感染予防対策のもと、取材を行いました。

JAグループ神奈川は、神奈川のアスリートを応援しています。

いいJAん!

かながわ明日のアスリート

車いすの激突音がコートに響き、自在に操る技術が注目される、パラリンピック種目の車いすバスケットボール。スポーツ県・神奈川にあって、パラ神奈川スポーツクラブは屈指の実績を誇る。

2019年の日本選手権は4位に終わったものの、1990年をはじめ、過去3度の日本一に。県内外の13人が所属し、リオデジャネイロパラリンピック代表の鳥海連志や、若き才能・古澤拓也両選手ら、現役の日本代表が所属する、国内でも有数のクラブだ。

競技は、5人対5人、ゴールの高さ3・05mは、一般のバスケットボールと同じ。選手の体形や特性に合わせた競技用の車いすを使用し、スピードや俊敏性、持久力に加えて車いすの操作技術が求められる。コロナ禍でそれらを高める練習や試合の場を失ったが、中嶋泰生代表は、「この状況でも競技の素晴らしさを伝えるために、結果を残さないと決意をこじませる。」

好選手が在籍し、バリアフリー化された県立スポーツセンター（藤沢市）を本拠地とする環境に慣れ、全国から有力選手が移籍を志す。中嶋代表は「障害が重いと考えていた選手が代表になることもあった。どこに可能性があるのかわからない。障害者の新たな才能を発掘する場として、同競技を普及させる意義を強調する。」

JAグループ神奈川から、県内産野菜を使用したカレーが贈られると、「タマネギが好きで唯一作れる料理です」と笑みを浮かべたのは、在籍3年目の丸山弘毅選手。17年のU23世界選手権に出場した逸材は、「ここで成長した先に、24年のパリパラリンピック出場があると信じている。1秒の差が左右する、チエアスキルを磨いていきたい」と力を込めた。



車いすバスケットボール

パラ神奈川スポーツクラブ